

近畿大学医学部同窓会

同窓会会報

第10号

発行日 平成23年7月1日発行
 発行 近畿大学医学部同窓会
 発行責任者 米井 潔
 編集者 同窓会報編集委員会

(医学部同窓会事務局)
 〒589-8511
 大阪狭山市大野東377-2
 近畿大学医学部学務課気付
 TEL 072-366-0221
 FAX 072-366-2106

CONTENTS

・会長挨拶……………	2	・平成22年度同窓会写真集……………	17
・近畿大学医学部長ご挨拶 塩崎 均…………	4	・医局紹介 呼吸器・アレルギー内科…………	25
・副会長挨拶……………	5	・支部紹介 奈良県支部「まほろば会」…………	27
・監事挨拶……………	6	・開業医の紹介……………	28
・近畿大学医学部教学部長ご挨拶 義江 修…………	7	・21年度の会計報告……………	30
・新任教授の紹介		・平成22年度の幹事会及び総会の議事録…………	33
救急診療部 平出 敦…………	9	・同窓会賞受賞者投稿……………	35
・本学卒業生の教授就任挨拶		・国家試験合格人数・合格率発表……………	39
大阪大学大学院医学系研究科 高田章好 ……	10	・同窓会賞について……………	40
神戸大学大学院医学研究科 森 康子 ……	11	・ホームページの紹介……………	41
・本学卒業生の附属病院新任教授紹介…………	13	・平成24年度の会員原稿募集……………	42
集中治療部 塩川泰啓…………	13	・平成23年度の総会の御案内……………	43
安全管理部 辰巳陽一…………	14	・会員勤務先変更のFAX……………	45
堺病院 呼吸器内科 原口龍太…………	15	・執行部紹介・訃報等……………	47
堺病院 血液内科 浦瀬文明…………	16		



ご挨拶 | 会長 米井 潔 (1期生)



平成22年5月に会長に就任させて頂き、早一年が経ちました。副会長を一年間やらせて頂いたとはいえ、何分はじめての業務で、とまどいながらの一年でした。

今回の「ごあいさつ」は会長就任からの反省をふまえて、今後の同窓会の活動方針を述べさせて頂きます。

1、熱き心

現在は少子高齢化・人口減少の中で経済の低迷から脱出できず、日本の医療も停滞しております。

我々は再度医師としての自分の姿勢を見直す時期ではないでしょうか。私は医療混迷の時代こそ熱き心をもって患者さんの立場になって、感謝の気持ちで日頃の医療を続けていくことが大切と考えます。

近大医学部出身の医師は開業医・勤務医として、地域で患者さんの支援を受けるドクターを目指しましょう。

2、学生支援

昨年度の学生支援として同窓会は以下の事を行ないました。

- ①授業のプロジェクターの寄付
- ②海外留学生への支援
- ③国家試験の受験生への文具配布と国家試験当日の救護医師の派遣
- ③については学生が、国家試験当日に実力

を発揮できるように近大医学部のネーム入り筆記具セットを作成しました。昨年末に、私と副会長2人でこの文具を京都北野天満宮に持参して合格祈願の御祈禱を受けました。

国家試験当日には同窓会より費用を出して、大学病院よりホテルに医師の当直をお願いしました。当直して頂きました、一日目の平出教授、二日目の平野先生、三日目の栗原先生にお礼を申し上げます。受験生は安心して今回の国家試験に臨めたことと思います。

同窓会はこれからも学生支援を出来るだけ行なっていく所存です。



3、支部の発足について

平成21年までは公式な支部として和歌山県の「金剛会」が活動されておりましたが、昨年度より大阪府八尾市の「近八尾会」奈良県の「まほろば会」と堺市支部が発足しました。

我々近大医学部は卒業生を輩出して、30年が経ち医師数は3200を数えます。

各地での同窓会支部の発足は大学との関連を密とするもので、同窓会への支援にもつながると言えます。会員は各支部への積極的なご参加をお願い致します。

4、名簿発刊について

名簿は平成17年度の発刊以来、お届け出来ておりませんでした。今回平成23年度の名簿を発刊致しました。

今までとは異なり個人情報 considering、個人の住所は一切記載しておりません。また20期生以後の会員は勤務先の変更が多いのか連絡がつかず、名簿の記載に空白が目立ちます。勤務先の変更があれば同窓会事務局へ御連絡下さい。

5、他大学との交流

平成22年9月に西日本私立医科学同窓会連会（岡山）と平成22年11月に全国私立医科学同窓会連絡会（東京）があり、私と副会長2人が参加しました。

私としましては、他大学との交流を積極的に行なってまいります。これらの会合は他大学と共有した同窓会の問題を議論できる有意義な場と考えます。



6、会員へのお願い

現在の年会費の徴収は全会員の3割程度です。これは同窓会の運営に大変な支障になっており、将来への不安材料でもあります。

役員は今後の同窓会業務をしっかりと行なって参りますので、年会費の振込みをお願い致します。

7、今後の目標

近大医学部も開校して37年目を迎えようとしております。現在の病院棟、研究棟、専門棟も老朽化しております。これは大学の業務に支障をきたしつつあります。同窓会としても由々しき事態です。

同窓会は塩崎医学部長と共に、近大医学部の発展に協力していく所存です。同窓会員は母校愛をもって、一緒に母校を支援して参りましょう。皆様の御支援の程、宜しくお願い致します。



最後に日頃同窓会を御支援下さっている会員および医学部の教職員の皆様方全てに感謝致します。



忘年の交わり

医学部長

塩崎 均



近畿大学医学部同窓会員のみなさま、会報誌の発刊おめでとうございます。

昨年は医学部学生教育をはじめ医学部設備の改新、医学部生の学資援助に多大なご協力をいただきました。また、医学部学生に医師国家試験時には精神的物質的なサポートを頂き、改めて厚く御礼申し上げます。目先の医師国家試験の合格率にこだわらずに、真の実力である6年生の全員卒業、医師国家試験の全員合格を目標に掲げて医学教育に取り組んできました。まだまだ、改革しなければならないところが多くありますが、残る任期を全うしたいと願っております。

さて、本年度は永年の夢であり課題であった、医学部ならびに附属病院の建て替えがスタートする年だと思います。新たな場所への移転も考慮いたしました。1000床の病院の移転には医療圏を考慮すると、解決困難な難しい問題が多くあり、この大阪狭山の地での建て替えとなります。職員の皆様ならびに同窓会各位のご協力、ご支援のお陰で附属病院の経営も順調に回復し、医学部ならびに新病院の建て替えがスタートできることを大変うれしく思います。まず、本年度は救急棟の新築が開始されます。

さて、「忘年の交わり」という諺をご存じでしょうか。忘年会の忘年ではなく、むしろ超年と言った方が適切と思いますが、年齢、

職位、男女を超えた親しい対等な交流（情報交換）を行うことの大切さを述べたものです。これは、中国の有名な「三国志」に出てくる逸話ですが、ある国の将軍が若い一兵卒の5項目の進言を受け入れ、戦に勝利したことから語られるようになった諺です。新医学部ならびに附属病院は今後20年いや30年先の世の中に対応できるものでなくてはなりません。同窓会の皆様のご協力を得て、20代から40代の若い皆さんの英知を取り入れた物が完成できれば最高であると思っております。職員、同窓会員一同の英知を集めれば、必ず素晴らしい医学部、附属病院が完成すると確信しております。

私事ですが、近畿大学医学部第一外科（旧）教授に就任させていただきまして以来、無事10年間を勤務することができました。同窓会会員の皆様からは医学部に対する物心両面からのご支援を賜り、本当にどれ程心強かったか、感謝あるのみです。

今年は同窓会員の皆様と共に新医学部ならびに附属病院の立ち上げという新たな挑戦をしてまいりたいと思いますので、ご支援の程どうぞよろしくお願い致します。

平成23年3月

ご挨拶

梅の校章に 誓って

同窓会副会長

岡藤 龍正



ごあいさつ

同窓の皆様におかれましては、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

私は、平成12年に太田前会長から同窓会副会長を拝命して以来、太田・丸山両先輩や幹事の先生方と一緒に近畿大学医学部同窓会を発展させるべく活動して参りました。そして昨年に就任された米井会長からも従来通りに副会長の職務を全うせよとのご指示を頂き、引き続き同窓会活動に微力を尽くさせて頂く事となり、その重責に改めて身の引き締まる思いを感じております。同窓の皆様の変わらぬご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

医学部と共に

近畿大学医学部には、本院、堺病院、奈良病院を合わせて26名の同窓の教授が就任され、日々活躍しておられます。これほど多くの同窓教授を輩出している大学は、近畿大学より早く創設された他大学にも例は少なく、同窓会としましては、これに過ぐる喜びはあ

りません。また、他大学や他学部で教授に就任されている先生方もおられ、これらは偏にご本人のご努力と同窓の皆様のご支援の賜物であろうと感謝申し上げます。

同窓会といたしましては、これら同窓の教授の皆様との連携を密に取り、同窓会活動にも積極的に参加して頂きたいと考えております。また、準会員である医学部学生の皆様の学生生活が実り多き物となるよう、物心両面での援助をさせて頂きたいと考えております。

校友会と共に

私達の母校である近畿大学は、13学部48学科を有する総合大学で、卒業生の総数は45万人を数えています。私達の周囲にも患者様のみならず、自宅や勤務先の自治会や市町村の役所、地域のボランティア団体等様々な場所に校友がおられ、これらの皆様と協力して活動する事で、私達の医師としての力を何倍にも発揮する事が可能となります。私も50歳を過ぎた頃になって、近畿大学が母校である事のありがたさを改めて認識できる機会が増えたような気がします。

さて近畿大学の校章である梅のマークの一部がやや離れているのは、人間としての内面の未完を表しているとの事で、生涯に渡っての研鑽を義務づけられた私達医師にとっては誠に相応しい校章と言えるのではないのでしょうか。

全国45万人の校友の皆様と共に、母校のさらなる発展に寄与できるよう力強い同窓会となれるよう、同窓の皆様のご協力を頂きながら、精一杯努力して参ります事を梅の校章にお誓いしたいと思います。

ご挨拶 | 監事 小栗 裕成

このたび同窓会の監事に就任しました小栗でございます。大阪府医師会理事としての4年間の経験をいかし、同窓会の発展のために微力ではありますが尽くしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

医学部の卒業生が出て30余年が経ち、全国至る所ですばらしい医師として活躍されていることと思っておりますが、今や開業されている先生の方が多くなって来ていることを考えると、会長が米井先生にかわったことも理にかなっていると思っております。

さて、バブル崩壊や小泉政権の影響で医療を取り巻く環境は非常に厳しくなっています。さらに、少子化により平成16年から17年にかけて日本の総人口は減少に転じています。一方、医療の進歩による長寿のため高齢化が進んでいます。75歳以上の高齢者は15年から20年後には約1250万人から約2200万人と約1.8倍（大阪府は約2.3倍）に増えるとされています。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように様々な取り組みがされていますが、高齢者の居住場所が英国の12%、デンマークの11%に比して日本は4.5%と少ないことから判るように、思うように整備が進んでいません。特に認知症対策は喫緊の課題であります。

また、医療の現場でも様々な問題があります。最近の話題としては環太平洋戦略的経済パートナーシップ協定（TPP）の問題があり、これは世界に冠たる日本の国民皆保険制度を揺るがすものであります。現実には、医師不足、医師偏在が大きな問題ですが、これには医事紛争や労働基準の問題や過重労働や新医師臨床研修制度など各種要因が複雑に絡み合っています。医事紛争は患者や患者家族

からのいいがかり、医師への不信感などが見え隠れします。また、過重労働という名の下に勤務時間以外は他人に任せ、自己の医学の研鑽がおろそかになってきている気がしますし、患者との信頼関係が薄れてきているように思います。これは、自分本位で権利ばかり主張する人達が世の中に増えてきているからではないでしょうか。医師こそヒポクラテスの精神にのっとり、自分のエゴや権力を求めるのではなく、他人のために、国民の健康を守るために力を注ぐのが務めではないでしょうか。これは医師にしか出来ないことです。患者や国民から信頼され尊敬される医師になり社会に貢献して頂きたいと思っております。

最後に、今後同窓会が卒業生のみならず医学部生にも力になれる存在になればと思います。

医学部教育の 新方針について



教学部長
細菌学教授

義江 修

同窓会の皆様、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。常日頃からご協力・ご配慮を頂き、まことにありがとうございます。さて、私は去る10月より教学部長を拝命致しました。これまで長く教務委員長・教学部長を務められてこられた生理学の松尾理教授が22年度をもって退任されるための後任ということでもあります。これまで教務関係にはまったくタッチしてこなかった身ですので、いろいろ戸惑うこともあり、まだまだ勉強中というのが正直なところです。ただ従来のカリキュラムについては疑問点も多々あり、それで見直す良い機会と思います。実際には1年ぐらいかけて各種委員会で審議を重ねて改変すべきものとは思いますが、できれば23年度のシラバスに間に合うようにと話を進めて、ほぼ理想的なカリキュラムが実現しつつあります。モットーは、「学生がハッピーになれる教育」、です。また教員の先生方のご負担もできるだけ減らしたいと思っております。以下、学年を追って変更点をご説明します。

1 学年： 新入生オリエンテーションで社会人としての態度教育を取り入れ、学生は最低でも挨拶ぐらいは積極的にするよう教育したいと思います。教養教育はほとんど変わりありません。ただこれまで病院実習として3

カ月かけて行っていた外来エスコートサービスをやめ、基礎の教授陣の講義と病棟実習に変えました。また英語の授業とは別途に英語力強化のための英文読解試験を毎週やります（辞書持ち込み可）。後期には基礎教室配属も実施します。

2 学年： テュートリアル教育と講義の両立は元のままですが、これまでのコースごとに行われていた試験は年4回の試験週間に実施することにしました。それによってコースではテュートリの発表などに力を入れ、また試験はしばらく間をおいて1週間の試験勉強期間を設けて復習させる、それによってこれまでのあわたたしい縦割り型時間割（ユニットの終わりに実習レポート提出、テュートリ発表、そして試験が一気に来る）を改善しました。また勉強を繰り返すことで記憶の定着も促進されます。

3, 4 年： テュートリは年度末の症候・病態コースの1カ月間に集中して行い、通年のテュートリはやめました（臨床講座の現状ではチューターの負担が大きすぎるためです）。また4年から5年の進級では共用試験（CBTとOSCE）と総合試験の両立をやめ、共用試験のみで進級判定します。それにより試験の二度手間がなくなります。

5 年： 臨床実習（クリクラ）のための一年ですから、従来が進級判定での総合試験重視をやめ、臨床実習を重視します。試験はTECOMの模試を前期と後期に実施し、ただそれは進級判定のためではなく、各自の実力把握に利用してもらうためです。さらに解剖生理と病態生理のネット講座を導入し、復習を兼ねて疾患理解のための基礎力強化を図ります。

6 年： 国試対策のための強化コースを従来より充実させます。一方、不必要なコースはやめます。具体的には外部講師の生講義を年3回、それもこれまでより多い日数でやり

ます。その時期も卒業総合試験の準備などに影響しない時期を選びます。画像集中コースは7月のみとし、11月はやめます。また4月から6月の補習講義は学生が聴講しやすい時間帯に変えます。

以上、いろいろと変更しておりますが、これは国対委員やその他の学生さんたちから聞いた意見をできるだけ取り入れたためです。さらに成績下位の学生さんたちに対するきめ細かい指導や配慮が今後の課題と思っておりますが、それについても個別の指導教員の先生方と密接に連携しながらやって行きたいと思っております。



就任挨拶

ご挨拶

近畿大学医学部
救急医学講座

平出 敦



2010年6月より、近畿大学の一員に加えさせていただきました。卒後16年間、大阪大学の関連で重症救急に携わり、その後、7年間は総合診療に携わっていました。さらに、6年間、京都大学で教育専任の教員としてもっぱら医学教育に携わっていました。2010年6月より、近畿大学病院の救急診療部（ER部）で救急診療に携わっています。大阪大学医学系研究科救急医学（附属病院高度救命救急センター）の教授として異動された嶋津岳土教授の後任として選考させていただきました。また、2011年4月からは、近畿大学医学部救急医学講座の主任教授に就任させていただいております。

重症救急や、総合診療の臨床経験をしてまいりましたが、私自身にとっても近畿大学でのER業務の経験は当直業務をはじめとして、たいへん刺激的なものとなっております。したがって、京都大学からER部教授のプレゼンテーションに参りました時に比較して、主任教授選考の際のプレゼンテーションにおいては、救急の事情も把握でき、地に着いた“夢”を語る事ができたように感じています。

さて、従来の私の大学病院での経験からみて、本学では救急の重要疾患を扱う急性期医療機関としての役割を、かなり積極的に果たしていることは間違いがないところです。しかし、各科の日常診療の水準もアクティビティも高いですから、数多くの患者が高度な診療を求めてやってきます。したがって入院待ちの患者も少なくありません。その中で、どのように救急を位置づけていくかが問われています。

このたび、国の医療施設耐震化臨時特例交付金を活用した大阪府の災害拠点病院の耐震化整備計画に、近畿大学医学部附属病院の事業計画が組み入れられました。これにより予定総額20億円を越える救急医療を中心とした建物の建築が認められました。この交付金は、災害時の患者受け入れ体制を整えるために整備されたものであり、災害時に果たす役割の重要性を勘案して災害拠点病院を優先して配分されています。したがって、東北関東大震災の教訓も生かして災害時への備えを整備することが求められています。それとともに、平時の救急医療に関して、しっかりと地域での役割を果たしていくことをめざしています。

最後に、本学でのカリキュラム委員長としての重責に関して抱負を述べさせていただきます。前任の2つの大学では、教育全体の取り組みに深くかかわり、特に京都大学在任中は、医学教育推進センター長として卒前、卒後の教育の枠組み作りに携わってまいりました。しかし、本学においては、皆さんの教育への取り組みの姿勢に、ひととき熱意あるものを感じます。若い人々を育成することの根源的な喜びは、何にもかえがたいというのが私の信条です。今後とも、どうかご指導をよろしくお願いします。

長い間ご無沙汰 していました

大阪大学大学院医学系研究科
美容医療学講座

高田 章好



このたび阪大教授に就任したことを阪大医学部同門会誌で塩崎近大医学部長がお知りになり、同期の米井潔同窓会長から投稿を頼まれた次第です。

私は昭和55年の卒業で近大医学部の1期生です。6年生の時に形成外科という診療科目の魅力に触れました。ところが当時は皮膚科に北里大形成外科から上石先生と市田先生が隔週で形成外科診療にこられているという程度で、現在の独立した形成外科の診療体制とは全く違いました。それでも学外に飛び出す勇気もなく取りあえず皮膚科で臨床研修を始めました。その年の皮膚科の入局は私だけで、受け持ちはもちろん夏休み前には外来にも出るというような状態でした。皮膚科の研修としてはよかったのかもしれませんが、やはり週1回の形成外科研修では満足できず、当時はまだ阪大も皮膚科内形成外科診療班でしたが1年後に入局しました。人手が少ないのは阪大も同様でしたが、兵庫県立こども病院、大阪警察病院、府立母子保健総合医療センターなどの関連施設でも研修することができました。府立母子保健総合医療センターにいるときは近大病院の近くでもあり、泌尿器科、脳外科、麻酔科などに近大から研修に来ている先生方もいて不思議な縁を感じていました。その後、形成外科のなかの美容外科を

追及したいと思い、医局に無理をいって民間のクリニックに勤め、そこをやめてからはフリーランスの生活をしていました。阪大分院が大阪市内にできるときにはまた戻る予定でしたが、時代のおかげで美容医療学講座ができることになり10年ぶりに大学にもどりました。

その抱負は次のとおりです。医療においてもQuality of Lifeが重要視されるようになった現在、美容医療も医学の一分野として認められてきているが、他の診療科目とは異なり未だ確立した研修制度もなく、日常の診療は開業医を中心として行われているため医療の質としての問題点が多くあります。最近は大学病院で美容外科を標榜しているところもありますが、これらの問題点を解決するまでには至っていません。

私は15年の形成外科診療を基礎として最近の十数年間は美容外科を探求してきました。手術術式に普遍性を求め、EBMに基づいた治療を確立して美容医療の不透明さを打破するべく努力してきましたが、医療側・患者側ともに意識改革は難しく現状を改革するまでには至りませんでした。今後は美容医療における基礎的研究からその臨床応用までを一貫して修得できる教育研修システムを確立したいと思います。また美容医療について保険診療との境界や整合性を検討すること、患者被害の生じている治療や未だ安全性の確立していない人工材料や埋入材の医学的検証をおこなうことなどに力を注いでいきたいと思っています。

最後になりましたが近大医学部の同門であることを忘れず、今後も精進したいと思います。

教授紹介



神戸大学大学院医学研究科
臨床ウイルス学分野
教授 森 康子

2008年4月付けで、神戸大学大学院医学研究科臨床ウイルス学分野教授として着任致しました。私は、近畿大学医学部を卒業した後、大阪大学医学部眼科学教室（真鍋禮三教授、現大阪大学名誉教授）に入局しました。大阪大学医学部附属病院で臨床研修を行った後、大阪大学医学部眼科関連病院にて眼科臨床に携わって参りました。日々の診療の中で、特に角膜疾患に興味を持ち、角膜に関する臨床研究を始めました。その中でも感染症特にウイルス感染症に興味を持ち研究を行ってききましたが、さらに深くその病原性発現機構を解析したいと思い、大阪大学大学院医学系研究科の大学院に進みました（微生物学講座山西弘一教授）。大学院生時代はウイルスの神秘的な世界に魅了され、ヘルペスウイルスの基礎研究にどっぷり浸ることになりました。当時、微生物学講座ではヒトヘルペスウイルス6の基礎から臨床に渡る広範囲な研究が行われており、大変勉強になりました。また、小児科や内科から研究に来られている先生方も多く、大学院時代を楽しく且つ有意義に過ごさせて頂きました。大学院4年生の頃に臨床に戻るかも少し基礎研究を続けていくかという選択に迫られました。この頃より、基礎研究の面白さに目覚め、結局、臨床に戻るこ

となく、そのまま基礎の世界に席をおくことになりました。研究を始めて以来現在まで一貫してヘルペスウイルスの研究を続けています。ウイルスは宿主がいないと生存できませんが、宿主もそのウイルスを排除しようと生体内ではその攻防が起こっています。特にヘルペスウイルスは宿主に潜伏感染するといった非常に興味深い特徴をもち、その謎は奥深いものがあります。

研究は謎説きでもあり、その謎が説けたとき、すなわち新たな発見ができたときには計り知れない程の喜びと達成感があります。しかし、それも一瞬でまた新たな謎が現れます。ウイルス学の謎を説くことによって未だ解明されていない細胞生物学や免疫学の解明にも近付くことができればと思い、日々研究を進めています。

私は、数年間、大阪大学医学部眼科の関連病院にて臨床に携わって参りました。その臨床経験が、今の基礎研究に活きていると強く感じております。

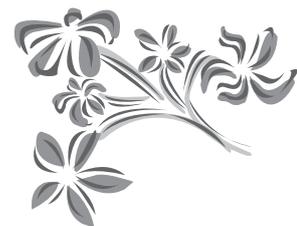
今後は、臨床で得た知識や多くの経験を活かし、独創性のある基礎・応用研究を目指していきたいと思っています。また、基礎研究の醍醐味を後輩に伝えることによって若手医師および若手研究者の教育、育成にも力をいれていきたいと思っています。

今、こうしてこのような立場で研究できるのも、ご教授頂きました恩師、先輩、同期生、後輩や友人、そして出会えたすべての皆様のお蔭であると感謝の気持ちで一杯です。

過去、現在そして新たな出会いを大切に、多くの仲間と共にわくわくするような世の中に貢献できる発見を目指して日々前進していきたいと思っています。母校の発展にも貢献できるよう精一杯努力精進する所存です。諸先生方のご指導、ご鞭撻を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

職 歴

- 1986年 3月 近畿大学医学部卒業
1986年 5月 大阪大学医学部眼科学教室 入局
1986年 7月 大阪大学医学部附属病院医員
(研修医)
1988年 7月 日生病院医員
1990年 7月 大阪警察病院医員
1993年 7月 行岡病院医員
1998年 3月 大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了
1999年 3月 ドイツエアランゲン大学医学部研究員
2001年10月 大阪大学院医学系研究科助手
(微生物学講座)
2003年 6月 大阪大学院医学系研究科助教授
(微生物学講座)
2005年 4月 医薬基盤研究所チーフプロジェクトリーダー
2008年 4月 神戸大学大学院医学研究科教授
(臨床ウイルス学分野)
2011年 4月 神戸大学大学院医学研究科感染症センター センター長



新任教授紹介



近畿大学医学部附属病院
集中治療部

教授 塩川 泰啓

平成23年4月1日付けで、近畿大学医学部附属病院集中治療部教授を拝命致しました塩川泰啓です。同窓会の皆様、自己紹介ならびに今後の抱負を述べさせていただきます。私は昭和59年近畿大学医学部卒業の5期生で、出生は布施市（現在の東大阪市）、追手門学院小学校・中学校、清風南海高等学校を卒業しておりますので、山桜会ならびに清風会の先生方には気軽にお声がけして頂ければ幸いです。医師国家試験合格後、全身管理とペインクリニックを学びたいという漠然とした考えで、当時スキー部の部長でもありました、末包慶太教授が主宰される麻酔科学教室に入局しました。当時の麻酔科は、同世代の先生が多く在籍されていたので、充実した研修医時代を送ることができました。はじめは数年麻酔科を研修した後、父親の跡を継ぐべく整形外科に転科するつもりでありましたが、2年間に麻酔の魅力に取り付かれ大学院へ進学しました。大学院では石部裕一先生（現山陰労災病院院長）指導のもと、低酸素性肺血管収縮反応の機序や薬物の影響を研究し、医学博士を取得することができ、末包教授、石部先生の推薦で平成5年から2年間、ペンシルベニア大学医学部麻酔科に留学させていただきました。滞米中に2代目麻酔科学教授として、東北大学から古賀義久先生が就任されました

が、帰国後も低酸素性肺血管収縮反応に関する研究を継続することができ、6名の先生方の学位論文の研究を共同で行うことができました。また復職してからは、医学部講師、講師を平成17年には附属病院集中治療部助教授（平成19年に准教授に改名）を拝命致しました。その間、平成14年からは附属病院中央手術部室長および集中治療部室長を兼務させて頂いております。平成22年には、3代目麻酔科学教授として、京都大学出身の中尾慎一先生が就任され、中尾教授ならびに福田寛二リハビリテーション医学教授（現中央手術部部長）をはじめとする諸先生方の推薦で今回の集中治療部教授拝命に至りました。

現在集中治療部は、9床（認可は10床）の総合ICUとして運営されており、大手術後の術後患者を中心に重症合併症の手術患者、紹介や院内発生 of 重症患者管理を乳児から高齢者までを対象に行っております。しかし、約1000床の病院から考えると、重症患者の全身管理を行う上では、現在の病床数は少なく、将来はCCU・HCU・PICU機能を持ち合わせた集中治療部に拡充することで、各診療科の先生方が安心して重症患者を治療できる環境を作り出せるよう努力していきたいと考えております。

教授としての職務は身に余る重責ではありますが、もとより浅学非才の私としましては、診療・教育・研究に精進を重ね、麻酔科学教室ならびに附属病院集中治療部の発展のために努力を尽くすつもりです。同窓会の先生方には、今日まで賜りましたご厚情に深く感謝いたしますと共に、より一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



近畿大学医学部附属病院安全管理部
近畿大学医学部血液内科(兼任)
教授 辰巳 陽一

近畿大学医学部同窓会の皆様方におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。平成23年4月1日付けで近畿大学医学部教授（附属病院安全管理部、近畿大学医学部血液内科）を拝命しました、5期生の辰巳陽一です。

ご挨拶に先立ちまして、今回の就任は、決して私の努力、精進の賜物ではなく、お名前を列挙できないほど多くの方々に支えられてのことであり、この場をお借りし皆様には心より御礼申し上げます。

私は、昭和59年に近畿大学医学部を卒業後、恩師であります堀内篤先生、入交清博先生、今田聰雄先生が主宰の旧第三内科に入局しました。当時の第三内科の対象は血液・腎臓・膠原病と多岐にわたり、“全身を診る内科”の醍醐味を心行くまで堪能するとともに、極めて自由な医局の雰囲気と（口に出せないほど）強列な個性の先輩方の薫陶を受け“命を救う、最後まで棄てない医療の考え方”を心の底まで浸みこませることができ、これが私の医療に対する考え方の礎となっていると信じています。平成61年度近畿大学医学部大学院に入学後、堀内先生のご推挙で、大阪大学バイオメディカル教育センター腫瘍発生学講座の濱岡利之先生、藤原大美先生に国内留学させていただき、ハードコア免疫学を4年間みっちり学ばせて頂きました。この間に、見いだすことの楽しさ、耐える力と自信を身につけることができたと思います。平成二年に博士号を頂いた後、濱岡、藤原先生の

御紹介で同年6月から4年余、米国シカゴ大学 Ben May Institute, Immunology Branch (Dr. Jeffery A. Bluestone lab.) に留学することとなりました。極寒の地で再び“Hard Core Immunology”に従事するとともに、多くの得難い友人を得ました。そして、“世界には賢い人間が沢山いる”ことを痛感しつつ、夏はゴルフと“Major League Soft Ball”、冬はJAZZとバーボン漬けになりながら、留学を何度も延長し、永住一步手前、まさにグリーンカードを申請すべしと言う時・・・堀内先生の“これ以上延長するなら破門”の一言に震え上がり、平成6年に帰国致しました。近畿大学医学部血液内科に再入局後は専ら悪性リンパ腫を扱うこととなり、途中教授が金丸昭久先生に代わられた後、昨年度から“盟友？”松村到先生になり現在に至ります。

今回の教授就任のきっかけになった医療安全の仕事に関しては、平成14年、シカゴ留学時代お世話になった福田寛二教授の甘い（苦い）誘いでその扉を開けることになります。いざやり始めてみると、当時の塩崎病院長の強いバックアップ、津田看護部副部長の熱血御指導のもと、その面白さの深みにドップリ頭まで浸かり、平成16年に医療安全対策室副室長、平成20年1月には室長を拝命し、今日に至ります。現在、血液内科業務とともに、医療安全教育・啓蒙活動、事故対応に忙しい毎日を過ごしています。いつか、皆様に医療安全学を語れる日が来るよう、精進いたしますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



近畿大学医学部堺病院
呼吸器内科

原口 龍太

4月より近畿大学医学部堺病院呼吸器・アレルギー内科に着任しました原口でございます。

私は1986年卒業後直ちに近畿大学医学部第四内科（現呼吸器・アレルギー内科）中島重徳教授の教室に入局しました。当時、気管支喘息の患者さんが多く、現在では喘息の標準治療とされている吸入ステロイド治療は確立されたものではなく当直の際は必ずと言っていいほど喘息発作の患者さんが来院され寝られないことが当たり前という状態でした。現在、重症発作で緊急を要するという症例を経験することは比較的まれであり、当時の経験は現在の呼吸器・アレルギー内科医としての基盤をなしていると思います。また入局当時、腫瘍内科はなく肺ガンなど呼吸器腫瘍は当科が担当しており呼吸器全般を研修させていただきました。一方、研究に関して、故大川健太郎講師のもと気管支喘息の病態におけるムスカリン受容体の役割に関する研究で本格的な研究を開始し、東田講師（現近畿大学呼吸器・アレルギー内科教授）のもと喘息の病態におけるサイトカインの役割についての研究で学位、日本気管食道科学会奨励賞を授与させていただいております。その後、咳嗽にかんしてその識別診断やストレス性咳嗽にかんしての研究等をおこなってきました。病棟医長、医局長などを経験後、平成17年よりは和歌山県橋本市民病院へ移動し呼吸器科医として呼吸器疾患、肺ガン、肺炎、新型インフルエンザをはじめとした感染性疾患に力を注いできました。ただ何分、初めての土地なため戸惑いも多かったのですが同門の上西先生をはじめ同窓の先生方のご助言、ご協力もあり円滑な診療運

営ができ症例数も増え平成20年には副院長となり紀北における呼吸器疾患の拠点としての役割を果たせたかと思っております。平成21年9月より東大阪市立総合病院へ異動となり呼吸器内科主席部長、呼吸器センター長を務めさせていただきました。

4名のSTAFFで数多く多彩な症例を経験させていただき充実した日々を送らせていただきました。同門の山崎先生、岩崎先生には診療面のみではなく主催される研究会に講師としてお呼びいただき、また1期生の丸山先生をはじめとした東部金剛会の先生方には講演会のみならず症例のご紹介などご協力をいただき大変助けられました。

今回、東田教授のご尽力、同門、同窓の先生方のご支援のもと堺病院の呼吸器内科に着任させていただきました。非常に重責を担うということで身の引き締まる思いです。幸い本院とも近く診療にご協力、ご援助いただけるということで安心しておりますがそれに甘えすぎることなく、これまでの近畿大学医学部、橋本市民病院、東大阪市立総合病院で培った経験を生かし堺病院呼吸器・アレルギー内科を地域に信頼されるものにしたいと考えておりますので同窓会の先生方にはご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



近畿大学医学部堺病院
血液内科
教授 浦瀬 文明

平成23年4月1日付で近畿大学医学部堺病院血液内科の教授を拝命いたしました。私は昭和57年に3期生として近畿大学医学部を卒業し、当時、血液・腎臓・膠原病内科を専門とする第三内科学教室（堀内 篤 教授）に入局しました。学生時代はサッカー部・スキー部に所属していた関係で、入局のきっかけは医局に運動クラブの先輩方がおられたことが大きな理由でありました。研修医時代は他の4名の同級とクラブの先輩に囲まれて、厳しい中にも楽しい2年間でありました。特に最初の1年目の研修医時代、10名近くの患者さんが亡くなりましたが、すべての患者さんの家族から剖検の許可を得たこと（剖検率100%）、また急性リンパ性白血病患者の女子高校生に私自身の血小板の成分輸血を提供したことなどが思い出されます。研修後は、骨髄移植班（岩永隆行室長→椿和央室長）に所属し、骨髄移植を中心に臨床をやり、「再生不良性貧血に対して非血縁者間移植を行った症例」、「同種骨髄移植後に出産した再生不良性貧血症例」などの本邦初の症例なども報告しました。研究面では、当時導入された造血幹細胞培養法を利用し、化学療法後の造血回復期の血液中に顆粒球造血抑制因子が出現することを見出し、この成果をまとめて学位論文とさせていただきます。

平成11年3月、国立泉北病院からの移譲により近畿大学医学部堺病院の立ち上げに際し、堀内 篤 元堺病院院長とともに赴任しました。当初は一般内科の標榜でおこない、いろいろな内科疾患をみれる反面、どんな疾患にも対応しなければならない状況でありました。平成14年助教授、一般内

科科長（兼務）を拝命し、それと同時に血液疾患患者が増加しました。忙しいと同時に充実していたころ、近大卒業生が入局してくれました。やる気のある若い医師のパワーは、これに勝るものはありません。現在、医局員は私を入れて5名ですが、入院稼働病床数30のほぼ100%が血液疾患患者であり、入院新患患者数は年々右肩上がりです。しかしながら堺病院では設備的に放射線治療部がないなど他の同規模の病院に比べて不十分な部分がありますし、また造血細胞移植に関するいくつかの認定基準をクリアしなければならぬなどの課題もあります。

国立泉北病院時代にはなかった血液内科がこのような成長した背景には我々血液内科の医局員だけの力だけではできないことであり、昨年近畿大学医学部内科学講座血液内科部門へ赴任された松村 到 教授をはじめ、諸先生方の温かいご支援があったからこそであり、この場をお借りして御礼を申し上げます。近畿大学医学部堺病院血液内科の診療・研究・教育のますますの充実を図る所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成21年度同窓会写真集

















呼吸器・アレルギー内科 医局紹介

呼吸器・アレルギー内科の始まりは、30年前にさかのぼります。昭和49年4月に近畿大学医学部が創設され、それから4年後の昭和53年9月1日に、呼吸器・アレルギー内科の前身として近畿大学医学部臨床部門アレルギー内科が開講しました。初代教授は、中島重徳教授で、当初は、専門棟5階に2区画の部屋が与えられただけでした。開講当時、国内の大学でアレルギー内科を標榜していたのは、獨協医科大学アレルギー内科のみであり、国内で2番目のアレルギー内科ということになります。その後、昭和55年に大学院の発足とともに、内科学第4講座に名称が変更となり、一期生が入局し、医局の土台を作りました。中島教授退職後、平成8年7月より、大阪市立総合医療センター呼吸器内科部長、福岡正博先生が2代目教授として就任し、新たに肺癌を中心とした臨床腫瘍学が教室のテーマとして加わりました。平成14年4月から、全国の大学で進められていた医学部改革の一環として、大講座制に移行し、内科学第4講座は、腫瘍内科学部門と呼吸器・アレルギー内科学部門に分かれ、現在に至っています。腫瘍内科部門は福岡教授が、呼吸器・アレルギー内科学部門は、本学第1期生である東田有智助教授が教授に就任し、それぞれの科を担当されることになりました。

当教室では、これまで、数多くの呼吸器専門医、アレルギー専門医を育成するとともに、診療・研究において全国レベルにまで養成されています。そして、現在は、東田有智助教授が中心となり、さらなる発展を遂げて、国際的な研究も数多く発表し、益々精力的に活動しています。

現在の呼吸器・アレルギー内科は、出向者や研修医も含め、現在、総勢25名です。呼吸器科専門医、アレルギー専門医は全国的にも少ないのが現状であり、本学および各関連施設には多数の患者が訪れ、スタッフ一同多忙を極めています。気管支鏡は週3回（火、水、金）施行し、年間500件程度おこなわれています。また、対象となる疾患は、喘息を中心としたアレルギー疾患、呼吸器感染症、間質性肺炎を中心としたびまん性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群であり、診療・研究にあたっています。旧第4内科より腫瘍内科（中川教授）が分かれたこともあり、呼吸器内科としては珍しく、非腫瘍性呼吸器疾患が中心となっているのが特徴です。

旧第4内科学教室時代から連綿として受け継がれている中心的な研究テーマは、気管支喘息の病態に関する生理学的・分子生物学的解明です。特に、実験喘息モルモットを用いた研究では、気道炎症のメカニズムや気管支平滑筋の収縮、気道過敏性の亢進、ストレスの影響などを解明することにより、数々の成果を上げ、内外の学会で注目を浴び、多くの論文にまとめられてきました。また、気管支喘息患者の末梢血好酸球およびリンパ球を用いた脂質メディエーターやサイトカインの役割に関する研究も行われ、最近では、喘息遺伝子に関する研究やマウス喘息モデルを用いた研究を海外に発表し、これらのデータを日本のみならず世界へ発信し、これからのますますの発展が期待できるところです。さらに、臨床的研究としては、約1000名にのぼる当科外来通院中の気管支喘息の肺機能、重症度、生活の質などをデータベース化し、気管支喘息に関する日常診療上、有用なエビデンスを作成し、国内外に向けて精力的に発表しています。それ例外の呼吸器疾患として、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群に関する研究も行っています。

当教室の卒後研修については、2年間の当学部卒後臨床研修プログラム（初期臨床研修）の後に助教として当教室に入局し、まず、日本内科学会認定医取得を目標として当院および関連施設で研修を勧めています。その後、診療主体を希望する医師は附属病院での勤務や関連病院への出向となり、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、日本感染症学会専門医、日本気管食道科学会認定医、インフェクシオンドクターなどの取得を目指します。当科は、日本内科学会教育認定施設、日本アレルギー学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設になっています。また、大学院への進学を希望する医師は、入局後大学院へ進学し、4年間で学位取得できるようプログラムが組まれています。学位取得後は、研究、診療、留学、関連病院出向などの進路が選べるシステムを構築しています。

東田教授が就任された後、平成19年4月より近畿大学医学部環境医学・行動科学講座に奥村二郎教授、平成22年4月より近畿大学医学部奈良病院呼吸器・アレルギー内科に村木正人教授、平成23年4月より近畿大学医学部堺病院呼吸器内科に原口龍太教授を当教室か

ら輩出しています。

当教室の学会活動としては、平成20年12月に呼吸器学会近畿地方会、平成21年7月に喘息の国際学会である Interasma を主催しました。さらに、本年2月には、第21回日本気管食道科学会気管食道科専門医大会を主催し、呼吸器内科だけではなく、多数の耳鼻咽喉科、外科の専門医が集まりました。来年（平成24年）には、開講十周年を迎えます。その栄えあるけじめの年には、第62回日本アレルギー学会秋季学術大会（平成24年11月29日～12月1日）を東田教授を会長として主催されます。

以上のように、私たちは精力的に臨床、研究、教育に邁進するとともに、気管市鏡技術のみではなく、心臓カテーテル検査、CTガイド下肺生検等の臨床技能の習得を含め、若手の医師教育にも力を入れています。当教室が30年間にわたり進化を続けてまいりましたのも、一重に同窓・同門の先生方の暖かいご尽力によるものです。今後とも、ご協力いただきます様をお願い申し上げます。また、ぜひ、呼吸器学、アレルギー学に興味のある学生さん、そして若い先生方にご連絡頂ければと思います。

（文責 富田 桂公）



近大医学部同窓会奈良県支部会「近大まほろば会」報告

近畿大学医学部奈良病院が平成11年10月に開院し、早いものでもう12年となります。現在、奈良県医師会に入会されている近畿大学医学部卒業生も100名を越しております。一期生として約20年間奈良県で診療に従事している私は、奈良県の医療における近畿大学医学部奈良病院を中心とした近畿大学卒業生の存在感が増して来ている事を最近ひしひしと感じております。

今回2月19日に第4回目となります同窓会奈良県支部会総会「近大まほろば会」を奈良市の春日荘「飛鳥の間」において会員先生方21名にご出席頂き開催いたしました。

総会は「近大まほろば会」会則、および役員案について御出席された先生方に御賛同頂きました。

以下は、当日御承認頂いた「近大まほろば会」役員です。宜しくお願いいたします。

支部長	波江野善昭	昭和55年卒
副支部長	千田 史郎	昭和55年卒
	正野 喜一	昭和55年卒
幹事	林 秀雄	昭和56年卒
会計	有山 武志	昭和63年卒
監事	太田 善夫	昭和55年卒

次に特別講演として近畿大学名誉教授 中島重徳先生より「咳喘息、気管支喘息」の御講演を頂き、その後出席された先生方と中島先生を囲んで和やかに懇親会を行いました。

御多忙にも関わらず、30年前と全く変わらず熱心に御講義頂いた中島先生には「本当に我々卒業生を愛して頂いている」という感謝の思いで一杯で、懇親会も中島先生を中心と

して非常に盛り上がりました。最後は米井同窓会会長恒例の「豪快な挨拶！」で爆笑とともに締めくくりました。

今後も「研修も遊びも！」とより楽しく有益な同窓会を目指して定期的に開催して行きたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

一期生 はえの医院 波江野善昭



開業医の紹介



4期生 老木 浩之

■はじめに

私は2001年12月、有床診療所を開院いたしました。「耳鼻咽喉科サージクリニック老木医院」という長い医院名で、「サージ」はsurgeryから採った、短期滞在手術を行うという意味です。

私は、1983年近畿大学を卒業し、耳鼻咽喉科学教室（当時太田文彦教授）に入局しました。1990年には神戸市立中央市民病院（現神戸市立医療センター中央市民病院）に出向し、その後、近大に病院講師として復帰し、生長会府中病院耳鼻咽喉科部長等を経て、開業しました。



■沿革と概要

開院時は、医師1名、看護師2名、診療助手3名、事務スタッフ4名でした。2003年4月には神戸時代の上司であった山本悦生先生に常勤いただくことになりました。山本先生は京都大学耳鼻科助教授を経て、神戸市立中央市民病院部長として長年勤務され、日本耳科学会理事長にも選出された、全国的にも屈指の中耳手術の権威です。その頃から徐々に手術件数が増え、2006年には増床を行い、2008年以降は徐々に常勤医師も増えてきました。

当院は地下1階、地上2階建てです。外来部門とは別に、全身麻酔が可能な手術室2室と病床数10床を備えています。職員は、現在、医師5名、看護師9名、診療助手3名、事務スタッフ6名です。

■当院の診療

当院の診療の中心は、全身麻酔下の短期滞在手術で、年間300件を超えています。鼓室形成術では、近隣だけでなく他府県からのご紹介もあり、手術数全国ランキングでは毎年、15位前後になっています。また、鼓室形成術だけでなく、喉頭手術、鼻・副鼻腔手術に関しても全国的に高いレベルにあると自負しています。

外来診療では、あまり普及していない治療に積極的に取り組んでいることが特徴です。外来手術として、鼓膜穿孔閉鎖術や花粉症に対する鼻腔粘膜焼灼術などを行い、手術数は年間200件あまりとなっています。保存的治療としては、耳鳴に対するTRT療法、顔面痙攣等に対するボツリヌス療法、嗅覚障害に対するステロイド鼻内注入などに取り組んでいます。

外来には、耳鼻科専用のCT撮影装置を設置しており、必要時、即座に撮影でき、初診時に手術適応の有無の判断が可能です。他に

も、鼻腔通気度計、重心動揺計、電気味覚計、顔面神経刺激装置、電子スコープなど大病院と比較しても遜色のない医療機器を装備しています。

2007年には、個人医院としては全国的にも数施設しかない、耳鼻咽喉科専門医認可研修施設に認可されました。また、学術活動にも積極的に取り組み、関西中耳臨床研究会を主催し、年2回の開催で参加医師は80名を超えています。

以上、診療や種々の活動を存分に行えるのは、日々、スタッフの支えがあるからにほかなりません。スタッフは医院の財産との考えから、その育成に大きな力を注いでいます。自己成長を実感できる職場とするため、勉強会を定期的に行うとともに、院外の様々な有料無料の講習会への参加も促しています。当院に見学に来られた医師がもっとも驚かれるのが、当院スタッフの意欲的な仕事ぶりであり、私の密かな自慢となっています。

■おわりに

父(小児科開業医)からはずっと勤務医でいくように勧められていました。開業の苦勞を息子にさせたくないとの思いからの助言であったと思います。実際開業から10年足らずが経った今、怖い面は多々あるものの、開業医には良くも悪くもやったこと全てがダイレクトに返ってくるというおもしろみ、醍醐味があることに気づき、その点を存分に楽しんでいるということはいえると思います。幸い、医師もスタッフもよい人材に恵まれ、何とか荒波を航行しているといったところでしょうか。さらに幸運なことに近畿大学医学部附属病院、堺病院が比較的近く、地元医師会にもたくさんの同窓の先生方がおられ、心強い限りです。もちろん、耳鼻咽喉科学教室同門の先生方からも日頃から様々なご支援を頂いており、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今後とも同窓・同門の先生方をはじめとして、周囲の方々への感謝を忘れることなく、当院でできることを1つ1つ積み上げ、ステップアップしていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



決算の部

【一般会計】

平成21年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

歳入の部

(単位 円)

勘定科目	予算額	決算額	増減	摘要
正会員年会費	3,000,000	5,580,000	2,580,000	559名-1名組み戻し
準会員年会費	600,000	635,000	35,000	平成20年度分
預金利子	50,000	51,461	1,461	大型定期預金利子含む
小計	3,650,000	6,266,461	2,616,461	
前年度繰越金	9,942,869	9,942,869		
合計	13,592,869	16,209,330		

歳出の部

(単位 円)

勘定科目	予算額	決算額	増減	摘要
会報費				
第8号印刷費	500,000	0	-500,000	
発送費	500,000	0	-500,000	
雑費	50,000	0	-50,000	
名簿費				
名簿発行準備費	500,000	0	-500,000	
第14号印刷費	2,000,000	0	-2,000,000	
発送費	1,000,000	0	-1,000,000	
事業費				
西部会援助金	1,000,000	774,714	-225,286	
教授就任祝賀会援助金	1,000,000	1,244,118	244,118	
総会援助金	500,000			
支部援助金	500,000	50,000	-450,000	
各期同窓会援助金	1,000,000	0	-1,000,000	
同窓会長賞費	30,000	12,873	-17,127	
科学助成金	600,000	0	-600,000	
医学部6年生海外研修援助金	100,000	0	-100,000	
奨学金準備金	1,000,000	0	-1,000,000	
広報費	100,000	0	-100,000	
会議費	1,500,000	82,220	-1,417,780	
事務費				
事務委託費	500,000	0	-500,000	
通信費	200,000	306,528	106,528	
印刷費	100,000	44,000	-56,000	
雑費	100,000	12,107	-87,893	
慶弔費	300,000	48,786	-251,214	
予備費	500,000	503,807	3,807	校友会パーティー券 国試浪人との懇親会・出張援助金
小計	13,580,000	3,079,153	-10,500,847	
次年度繰越金	12,869	13,130,177		
合計	13,592,869	16,209,330		

【特別会計(1)】

教授就任祝賀会・総会

開催日 平成21年11月7日

収入の部

勘定科目	金額	摘要
会費(70名)	1,050,000	
校友会よりお祝い金	30,000	
青木先生よりお祝い金	10,000	
一般会計より	1,244,118	
合計	2,334,118	

負債の部

勘定科目	金額	摘要
リツカールトン	1,784,840	
総会はがき印刷	482,679	
集合写真	29,085	
ネームプレート	11,088	
花束	20,000	
記章リボン	2,646	
記章リボン	3,780	
合計	2,334,118	

【特別会計(2)】

西部会

開催日 平成21年9月12日

収入の部

勘定科目	金額	摘要
会費(35名)	525,000	
一般会計より	774,714	
合計	1,299,714	

負債の部

勘定科目	金額	摘要
シェラトン都ホテル	1,071,511	
講師謝礼	100,000	
学部長お礼	30,000	
打ち合わせ	3,500	
領収書	798	
近大マグロ購入	56,385	
記録CD作成	15,000	
2次会	17,400	
雑費	5,120	
合計	1,299,714	

【財産目録】

資産の部 平成22年3月31日現在

勘定科目	金額	摘要
一般会計		
預け金	183,316	会計幹事
預け金	346,695	学務課
普通預金	10,589,575	三井住友銀行/金剛支店
郵便貯金	2,010,591	ゆうちょ銀行
小計	13,130,177	
各種事業準備金		
定期預金	19,719,485	三井住友銀行/金剛支店
定期預金	3,120,637	りそな銀行/河内千代田支店
定額郵便貯金	5,080,400	ゆうちょ銀行
小計	27,920,522	
合計	41,050,699	

負債の部

勘定科目	金額	摘要
合計	0	

上記のとおり報告します。

平成22年10月30日

近畿大学医学部同窓会

会長

米井 潔

副会長

岡藤 龍正

会計

伊東 良江

若垣厚志

上記監査の結果適正であることを認めます。

平成22年10月30日

近畿大学医学部同窓会

監事

小葉 裕成

予算の部

[一般会計]

平成22年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）歳入歳出予算書

歳入の部

(単位 円)

勘定科目	予算額	摘要
正会員年会費	3,100,000	10,000円×3,100人×10%
準会員年会費	600,000	平成21年度分
預金利子	20,000	
小計	3,720,000	
前年度繰越金	13,130,177	
合計	16,850,177	

歳出の部

(単位 円)

勘定科目	予算額	摘要
会報費		
第8号・第9号印刷費	1,000,000	500,000円×2回分
発送費	1,000,000	500,000円×2回分
雑費	100,000	50,000円×2回分
名簿費		
名簿発行準備費	500,000	
第14号印刷費	2,000,000	
発送費	1,000,000	
事業費		
西部会援助金	1,000,000	
教授就任祝賀会援助金	1,000,000	
総会援助金	500,000	
支部援助金	500,000	
各期同窓会援助金	1,000,000	
同窓会長賞費	30,000	
科学助成金	600,000	
医学部6年生海外研修援助金	100,000	
奨学金準備金	1,000,000	
広報費	100,000	
会議費	1,500,000	
事務費		
事務委託費	500,000	
通信費	200,000	
印刷費	100,000	
雑費	100,000	
慶弔費	300,000	
予備費	500,000	
ベンチの屋根	1,000,000	
小計	15,630,000	
次年度繰越金	1,220,177	
合計	16,850,177	

第3回 近畿大学医学部同窓会幹事会 議事録

日時 平成22年10月30日
場所 ザ・リッツカールトンホテル大阪

- 1 米井会長挨拶
- 2 平成22年度事業報告
 - ・同窓会事務員の件
学務課の職員としてパートを募集する予定
 - ・名簿発行の件
電話番号を記載しないなど、個人情報に配慮して発行する予定 現在準備中
 - ・ホームページの件
医学部のホームページの一部に同窓会ホームページを作成中
誰でもアクセスできる予定
 - ・学生支援の件
同窓会からのビデオプロジェクター贈呈について、福田教授から御礼の言葉を頂戴した。
 - ・第20回全国市立医科大学同窓会連絡会西部会への参加報告
(平成22年9月11日 ホテルグランヴィア岡山)
 - ・近畿大学校友会定期総会への参加報告
(平成22年10月18日 シェラトン都ホテル大阪)
 - ・第21回全国私立医科大学同窓会連絡会参加予定
(平成22年11月27日 ハイアトリ-ジェンシ-東京)
- 3 審議事項
 - ・学生幹事選出に関する会則改定の件
(第5章、第9条、第5項)
「その卒業生に一任する」→
「幹事会において選出する」
学年幹事に欠員が出た場合、クラス全員で決定する必要があるが、現実的にその学年の卒業生が集合することは無

理なので、改定が必要。

この件は幹事会で了承され、総会での議題として提出することが決定した。

- ・同窓会賞の件
同窓会賞候補2名の推薦あり。
論文内容についての説明をうけ、幹事会で了承された。

18期 有村英子先生

近畿大学医学部眼科

研究課題

M-CHARTSにおける変視症の定量化

推薦者 松本長太教授

25期 岸本英樹先生

近畿大学医学部整形外科

研究課題 Induction of hypertrophic

chondrocyte-like phenotypes by oxidized LDL in cultured bovine articular chondrocytes through increase in oxidative stress

推薦者 福田寛二教授

- ・平成21年度事業報告・決算報告・財産目録
平成22年事業計画・予算 発表

- ・新監事 小栗裕成先生(5期生)就任が了承された。

- ・本年度同窓会総会について

11月13日 ザ・リッツカールトンホテル大阪

- ・学生支援の件 本年度 合格セット(鉛筆3本・けしごむ・鉛筆削りセット)

国家試験前日の対応

(学生が宿泊するホテルに医師配置)

来年度 ベンチの屋根設置

(雨の日も利用できるように)

- 4 提案 「保護者会の設立」について意見がだされた。

平成 22 年度 近畿大学医学部同窓会総会 議事録

推薦者 松本長太教授

日時 平成22年11月13日 (土)

場所 ザ・リッツカールトンホテル大阪

25期 岸本英樹先生

近畿大学医学部整形外科

研究課題 Induction of hypertrophic chondrocyte-like phenotypes by oxidized LDL in cultured bovine articular chondrocytes through increase in oxidative stress

推薦者 福田寛二教授

- 1 米井会長挨拶
- 2 平成21年度 決算報告
- 3 平成22年度 財産目録報告
- 4 監査報告
- 5 平成22年度事業報告
 - ・同窓会事務員の件
学務課の職員としてパートを募集する予定
 - ・名簿発行の件
電話番号を記載しないなど、個人情報に配慮して発行する予定 現在準備中
 - ・ホームページの件
医学部のホームページの一部に同窓会ホームページを作成
 - ・学生支援の件
同窓会からビデオプロジェクター贈呈
 - ・第20回全国市立医科大学同窓会連絡会西部会への参加報告
(平成22年9月11日 ホテルグランヴィア岡山)
 - ・近畿大学校友会定期総会への参加報告
(平成22年10月18日 シェラトン都ホテル大阪)
 - ・第21回全国私立医科大学同窓会連絡会参加予定
(平成22年11月27日 ハイアットリジェンシー東京)
 - ・同窓会賞 (2名)
18期 有村英子先生 近畿大学医学部眼科
研究課題 M-CHARTS における変視症の定量化

- ・学生国試支援 合格セット (鉛筆3本・けしごむ・鉛筆削りセット) 配布

6 平成22年度 予算報告

7 審議事項

- ・学生幹事選出に関する会則改定の件
(第5章、第9条、第5項)

「その卒業生に一任する」→

「幹事会において選出する」
ことが了承された。

- ・来年度 ベンチの屋根設置
(雨の日も利用できるように)
- ・「保護者会の設立」について
- ・学生国試支援 国家試験での対応検討
(学生が宿泊するホテルに医師配置)

同窓会受賞者投稿

同窓会奨賞を いただいて

近畿大学医学部堺病院
眼科

有村 英子

この度、平成23年度、「Correlations Between M-CHARTS and PHP Findings and Subjective Perception of Metamorphopsia in Patients with Macular Diseases.」の論文に対して、近畿大学同窓会賞をいただきました。

私は、研修医の頃より変視症について興味を持ち、研究をしてまいりました。

変視症とは、物が歪んで見える自覚症状のことで、視力や視野と同様に患者の視機能の質を左右する重要な要因の一つです。多くの視力良好な黄斑疾患患者さんが、合併する変視症のために、その視機能に満足していないのが現状です。変視症には日常ほとんど気にならないものから、片眼遮蔽を要するまで非常に様々な重症度があります。従来から変視症に関する研究は、さかんとはいえませんが古くから行われていました。しかし、その定性的評価は可能でしたが、定量的評価は困難でした。当教室の松本教授も変視症に興味をもたれ古くから研究をされておられました。その流れを引き継ぎ、松本教授とともに1998年に、簡便に短時間に変視症を定量化可能な変視表 M-CHARTS を開発いたしました。この M-CHARTS は従来とは全く異なった測定原理で変視を定量します。変視を認知するためには、ある一定の長さの直線の網膜面への刺激が必要です。そこで、直線および種々の間隔の点線を用い、間隔の細かな点線から荒い点線を準に提示すると被検者は次第に変視を認知しなくなります。そして変視を自覚し

なくなった点線の視角を変視量として定量するというものです。この M-CHARTS の利点は、被検者が記載することなく点線を眼で追うだけで行える簡便さにあります。そのため、現在では、アメリカやヨーロッパのみならず、インドなどでも広く使用していただけるようになりました。

開発後は、M-CHARTS による変視量と各種黄斑疾患における病態把握について研究を進め論文や学会発表をさせていただいておりました。この度賞をいただいた論文は、患者さんの日常生活における変視症の自覚が、私達が現在行っている変視定量の値とどのように相関しているのかを知るために行った研究に関するものです。

臨床研究において、検査結果がどのように患者さんの日常生活における自覚を反映しているかを知ることがとても重要です。そして、患者さんの日常生活における自覚症状を知るにはアンケート調査が必要となります。しかし、変視症に的を絞ったアンケートは私の調べた限りでは報告はなく、まず独自にアンケートを作成しました。日常生活で身の回りにある対象物で歪みを感じ易いものを考え、診察時の患者さんの訴えとあわせて、質問内容を検討しました。対象物までの距離、感じ易い方向、等々を考慮しました。アンケート内容が的確であるかは rasch 解析を用いて検討をおこないました。この解析がかなり難しく、非常に苦労しました。その結果、統計学的に偏りのないアンケート内容を作成でき、またその結果が私達の測定している変視量と相関を認めました。

現在は、低視力者用の M-CHARTS を作成し、その有用性についての検討や、モニター上での M-CHARTS の作成等を行っております。今後も変視症に関する研究を続け、患者さんの変視症に関わる病態や自覚症状のさらなる把握に努め日常臨床に役立てることがで

さればと考えております。

最後になりましたが、これまで変視症研究にご指導いただきました下村教授、中尾教授、松本教授をはじめ、大量の検査を一緒にがんばってくれている視野検査員の方々、またこのような素晴らしい賞をいただきました同窓会会長米本先生をはじめ同窓会員の皆様に厚く御礼申し上げます。これからも精進してまいります。ありがとうございました。



同窓会賞を いただいて

整形外科

岸本 英樹

近畿大学医学部同窓会会員の諸先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。25期生の岸本英樹と申します。平成16年近畿大学医学部を卒業後、近畿大学医学部附属病院にて新臨床研修制度の1年目として臨床研修を行いました。その後近畿大学大学院に入学、外科系整形外科学教室にて軟骨代謝の研究に携わり、平成21年学位を取得致しました。その後近畿大学医学部整形外科学教室にて助教として現在に至ります。

この度、平成22年度近畿大学医学部同窓会総会におきまして、大学院時の論文“Induction of hypertrophic chondrocyte-like phenotypes by oxidized LDL in cultured bovine articular chondrocytes through increase in oxidative stress”に対し、同窓会奨励賞を賜りました。非常に光栄に感じますとともに、米井会長をはじめ、諸先生方には深く感謝申し上げます。

私は前述の通り、新臨床研修制度の1年目として臨床研修を致しました。新臨床研修制度には賛否あり、現在でも議論が続けられ、研修プログラムの内容については引き続き改訂が加えられていると存じております。と同時にマッチングシステムが施行され、研修医が自由に研修病院を選ぶことができるようになっていきます。私の卒業した学年も、多くの同級生が近畿大学を離れ、近畿大学以外の臨床研修病院を選択致しました。

私は、附属病院を選んだ理由として、昔から研修施設・指導機関のノウハウが大学にはあるということ、各分野のエキスパートが大学にいるということ、また学位を含め、大学の教育・研究機関としての他の施設にはない

研修ができることに魅力を感じたことがあります。他の病院をみると、やはり症例数も豊富で、common diseaseを診ることができる、また整形外科医として執刀できる機会が多いことは魅力であったのですが、まずは医師としての基礎をしっかりと築きたい思い、大学での研修を致しました。現在は整形外科医として、専門医取得に向けての勉強をしています。

卒業後は日常の業務に忙殺され、気づけば丸7年の月日が経っていました。最近では同期に卒業した友人を大学でみることも多く、みな第一線で活躍されています。大学の当直の際など、ほとんどが同期で、なにか懐かしさを感じるとともに、自分もそんな学年なんだなと思い、自分が卒業したての頃、7年先輩だった先生方はどうだったのかな、と感傷にふけることもありました。

最近では卒業し、他の研修施設へ行った同級生と会う機会はめっきり減りましたが、先日久しぶりに友人と会う機会がありました。そこでいろいろな情報交換ができたと思っております。その話の中で、いろいろうらやましいと感じることもあり、また、逆の部分もあったかなと、とても有意義な時間を過ごすことができました。この度、同窓会の総会へは初めての出席をさせていただいたのですが、そこで以前にお世話になった先生方で大学以外の施設へいらっしゃる先生方や、普段話をする機会の少ない研修医時代の指導医の先生方とお話をする機会を頂き、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。

我々の仕事は、業務の上で、また自己研鑽の上で常に情報を交換する事が非常に重要だと考えています。そんな中で、他の施設や環境にいる先生方の情報は非常に貴重なものと考える一方、交流のない施設や科が違う先生方との接点はなかなかとりにくいのが現状です。特に、我々のように新臨床研修医制度以

降の学年にとっては、まったく関連のない病院へ行ってしまった友人とは連絡がとりにくく、またそのような人の話ほど聞いてみたいものです。米井会長には日々ご尽力を頂いておりますが、同窓会がなお一層発展し、病院・施設・学年を超えて近畿大学医学部卒業生の架け橋になって頂きますよう祈念しております。

最後になりましたが近畿大学医学部同窓会と、会員の先生方の益々のご発展とご多幸をお祈りしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

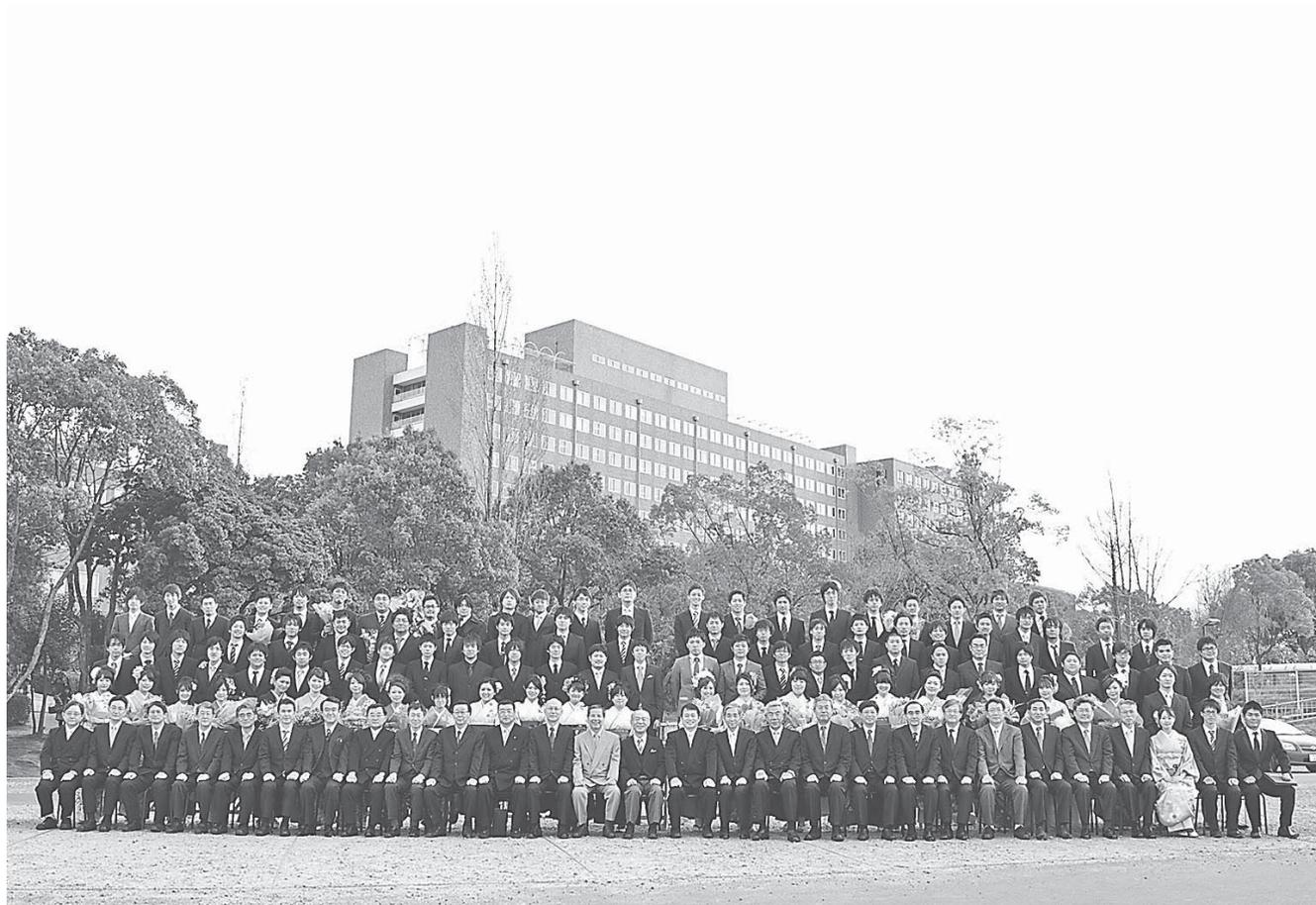


第105回国家試験 合格者数と合格率

合格者数 105名（現役生 91名、既卒生 14名）

合格率 84.7%

合格者の皆様おめでとうございます。



同窓会賞について

近畿大学医学部同窓会では、科学助成金制度の一環として近畿大学医学部同窓会研究奨励賞（同窓会賞）を毎年募集しています。これは近畿大学医学部同窓会会員のみを対象とした制度で、会員の行う優秀かつ重要な研究計画並びに研究成果に対し10万円～30万円の助成金を授与します。奮って応募していただくようお願い致します。

なお、受賞された研究は、同窓会会報へ投稿していただきます。応募される方は、同窓会事務局まで御連絡下さい。



医学部同窓会の ホームページについて

同窓会のホームページがやっと立ち上げることが出来ました。

今までは同窓会会員の先生方をお願いをしていましたが、大変御苦勞、ご迷惑をおかけしましたことをこの場をお借りしお礼申し上げます。今まで有難うございました。

今回から近畿大学病院等のホームページの関連会社に委託しこれから運営していきたいと思えます。

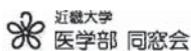
ホームページの維持、管理は大変なことですがこれから同窓会一丸となって頑張りますのでご理解のほどよろしくお願ひします。

同窓会に関してのご質問・お問い合わせ、住所変更がございましたら、ホームページ上の【問い合わせ】からも受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください

<http://www.kindai-dosokai.com> 5月1日よりアクセス可能

尚 ホームページ上の会員専用ページでは各情報、会員の情報等のリンク一覧も考えております。今後ご利用くださいますようお願いいたします。

会員ユーザー名、パスワードは同封の用紙で確認ください



HOME 同窓会規約 個人情報保護方針 サイトマップ

会長あいさつ お知らせ 行事のご案内 同窓会について 沿革 お問い合わせ 会員専用ページ



第11号会報誌 原稿募集御案内

同窓会会員におかれましては日常の診療に御活躍のことと存じます。

次回の第11号の会報誌に会員の皆様から投稿を募集致します。御自身の勤務先、開業、趣味の御紹介などを記事投稿規定を参照して頂き、下記まで投稿をお願い致します。締め切りは平成24年3月31日までです。

但し、医院の広告などは御遠慮下さい。

記事投稿規定（1ページ用）

1. 20字×60行（1200字）までの文章でお願いします。出来れば word 等のデジタルデータでの入稿をお願いします。
2. 写真は3枚まででお願いします。縮小は当方に一任下さい。デジタルカメラでのデータも縮小なしの最大サイズでお願いします。
3. CD,USB メモリーでの投稿も可能です。

送付先

近畿大学医学部学務課 同窓会事務局 担当 森・藤田

〒589-8511 大阪狭山市大野東377-2

TEL 072-366-0221

FAX 072-366-2106

PC メール dousokai@med.kindai.ac.jp

23年度近畿大学医学部 同窓会総会のご案内

各会員におかれましてはお忙しい日々を送っておられることとお喜び申し上げます。

同窓会会員も3000人を超え、大きな同窓会になってきましたが、ここで母校愛を感じてみませんか？ 下記の日程で同窓会総会を開催します。卒業して時間が経っても、近畿大学のことがちょっと気になる時もあるかと思えます。

そんな空気を年に一回体験してください

今年もザ・リッツ・カールトン大阪でお待ちしております。



記

日 時： 11月12日(土) PM 6時ごろ

場 所： ザ・リッツ・カールトン大阪

総会の後は 懇親会がごぞいます。

今回も新任教授祝賀会も兼ねて行います。

**住所変更
異動通知は FAX でお送り下さい
FAX 072-366-2106**

送り先：近畿大学医学部同窓会事務局

同 窓 会 名 簿 変 更 連 絡

平成 年 月 日

卒業年月日 / 昭和 平成		年	月卒業 (第	期卒)
ふりがな				
氏 名			旧姓	
現 住 所	〒			
電 話	()			
F A X	()			
E-mail				
勤務先・開業	名 称			
	所 属			
	所 在 地	〒		
	電 話	()		
	F A X	()		

住所・氏名の変更、勤務先変更等の場合には直ちにこの用紙で FAX 下さい。
住所変更・異動通知は必ずして下さい。
尚、名簿には勤務先のみ掲載します。

その他、連絡事項：

.....

.....

.....

.....

執行部紹介

平成23年度 近畿大学医学部同窓会役員名簿

名誉会長 野田起一郎 (近畿大学顧問・名誉教授)

名誉顧問 世耕 弘昭 (近畿大学理事長)
世耕 弘成 (近畿大学副理事長)

顧問 塩崎 均 (医学部長)
工藤 正俊 (附属病院長)

会長 米井 潔 (1期)

副会長 東田 有智 (1期) 岡藤 龍正 (6期)
岩垣 厚志 (12期)

庶務幹事 中井 章至 (8期)

会計幹事 伊東 良江 (4期)

書記幹事 永田恵美子 (17期)

監事 小菓 裕成 (5期)

学術幹事 濱 純吉 (1期) 田中 晃 (1期)
巽 信二 (1期) 前田 裕弘 (1期)
菊池 啓 (1期) 山田 秀和 (2期)
三島 弘 (2期) 塩田 充 (2期)
大野 恭裕 (2期) 福田 寛二 (2期)
佐藤 隆夫 (2期) 上嶋 繁 (2期)
竹村 司 (3期) 磯貝 典孝 (3期)
奥村 二郎 (3期) 森口 直彦 (3期)
浦瀬 文明 (3期) 岡田 満 (4期)
松本 長太 (4期) 西岡 伯 (5期)
辰巳 陽一 (5期) 塩川 泰啓 (5期)
上裕 俊法 (6期) 森 康子 (7期)
原口 龍太 (7期) 村木 正人 (8期)

学年幹事 板垣 信生 (1期) 市川 利洋 (1期)
植田 香子 (2期) 泉 貴文 (3期)
大槻登志子 (3期) 原 聡 (4期)
久保 裕一 (4期) 竹中 俊彦 (5期)
尾鼻 康朗 (6期) 船井 貞往 (6期)
和田 正彦 (7期) 石川 泰明 (7期)
岸谷 讓 (8期) 貴島 浩二 (9期)
梅川 徹 (9期) 岩永 賢司 (11期)
唐崎 専也 (11期) 上野 貢生 (12期)
石丸英三郎 (12期) 杉原 功一 (13期)
西坂 文章 (15期) 吉川 構 (16期)
兪 炳碩 (16期) 林 義之 (17期)

南 康範 (18期) 阪本 光 (19期)
小川 力 (20期) 長井 博一 (21期)
頭司 敏文 (24期) 田村 純 (25期)
湯上晋太郎 (26期) 文田 壮一 (27期)
前川 昌平 (27期) 今岡 のり (28期)
佐藤 満雄 (29期) 西 一美 (29期)
松本 知之 (30期) 沼田 卓也 (30期)
浜崎 真一 (31期) 佐藤 雅子 (31期)
松山 和史 (32期) 牛嶋 北斗 (32期)

訃報

平成22年11月に

19期生 濱口百年 先生

平成22年12月に

10期生 浅井 淳 先生

平成23年1月に

12期生 菅野 亮 先生

平成23年1月に

8期生 山本高広 先生

平成23年2月に

3期生 三嶋昭彦 先生
が御逝去されました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

発行日 平成23年7月1日

近畿大学医学部同窓会会報 第10号

発行 近畿大学医学部同窓会
発行責任者 会長 米井 潔

近畿大学医学部学務課 気付
Tel: 072-366-0221
Fax: 072-366-2106

編集 近畿大学医学部
同窓会会報編集委員会

事務局 近畿大学医学部学務課



〒589-8511
大阪狭山市大野東377-2
近畿大学医学部学務課気付
近畿大学医学部同窓会
TEL 072-366-0221・FAX 072-366-2106